

松本城の歴史と保存について

松本城は、戦国時代（1467-1568）に小笠原氏が築城した日本最古の城の一つであり、長い歴史の中で繁栄と衰退の歴史を繰り返してきた。

1594 年に石川家が築いた大天守、乾小天守、渡櫓が現在の城の原型である。1603 年、徳川幕府が開かれると、松本城は 16 世紀の乱世に終止符を打ち、いくつかの家系が代々続いた地方行政の中心地となった。1633 年、松平家は天守閣を増築し、辰巳附櫓と月見櫓を建てて、平時と戦時の建築様式を併せ持つ城となった。

1868 年の明治維新後、城は戦国時代の遺物とみなされるようになった。近代化のため、多くの天守閣が取り壊され、堀が埋められ、土地は再利用された。松本城も同じような運命をたどるところであったが、多くの個人や団体の努力によって救われた。

第二次世界大戦（1939-1945）末期には、日本に残る多くの城が空襲で破壊された。松本城は戦災を免れたが、1945 年の大地震で被害を受けた。その後、連合国軍最高司令官総司令部（SCAP）により文化的重要性が認められ、1950 年から 1955 年にかけて大規模な修理が行われた。1952 年、松本城は国宝に指定され、現在、国宝に指定されている 5 つの城のうちの 1 つとして保護されている。

国宝に指定されている城：

松本城、犬山城、彦根城、姫路城、松江城

重要文化財に指定されている城：

弘前城、丸岡城、備中松山城、丸亀城、松山城、宇和島城、高知城